

地域からの発信

地域の課題を世界と学び、解決の場を育む - RCE道央圏 -

グローバル（地球規模）の課題をローカル（地域）の視点で解決するための「持続可能な社会をつくる地域拠点（RCE）」が北海道の道央圏につくられました。SDGsの達成に向けて意欲的に取り組んでいます。

顔の見える関係を結び、アクションを加速する

気候変動や生物多様性の損失、人権侵害といった問題は、国際的な文脈で語られがちです。けれど、地域に目を転じてみることで、解決に向けた、身近で具体的なアクションが、よりイメージしやすくなります。地域の自然はどう変化しているのか。貧困や格差の実態はどれくらい把握され、解決に向けたアクションと結びついているのか…。個別の活動や、それに携わる人たちの顔が見える関係の環が広がれば、知恵や力が集まり、よりよいアクションを加速することができる。それは、持続可能な開発のための教育（ESD）、そのものと言えます。



2015年12月に開催したSDGsセミナー

地域の個性が、世界の学びのヒントになる

多様な風土文化を持つ日本には、個性豊かな地域文化が育まれてきました。統計データで語られる標準的な日本像とは大きな違いを持つ地域も少なくありません。例えば、日本の食料自給率は約40%とされていますが、北海道は200%。一方で、農林水産業や地域の商工業の担い手の減少や高齢化、貿易自由化の影響など、心配要素も多くあります。また、アイヌの問題に関しては、国連人権委員会が日本政府に改善を求めるなど、国家の枠組みを超えた活動も存在します。このような地域の独自性を踏まえ、知恵や情報などさまざまな力を合わせることで、どのような解決策を生み出していけるのか。これからの歩みが注目されます。



親も子も楽しく安全に学べるフィールドが都市部に近いのも道央圏の特徴

「地域の力」を、6つの分野から診断 - 地域の力診断ツール -

地域がどのように持続可能であるのかを、地域に住む人々が主体となって診断し、現状や地域のポテンシャルを図る道具として「地域の力診断ツール」が注目されています。

元気な地域には、共通点がある

地域の力診断ツールは、専門家からなる「地域の力」フォーラム（事務局：一般財団法人CSOネットワーク）が全国各地域を視察した経験から、地域の人たちの意見を参考につくられました。そのきっかけとなったのが、有機農業が盛んな福島県二本松市東和地区の取り組みです。この地域は、2011年3月の東日本大震災や原発事故の影響を大きく受けながら、地域の人たちの力で、いち早く活力を取り戻しました。新規のワイン会社が立ち上がり、農家民宿が増え、都市との交流事業が活性化するなど、「震災前の状況に戻す」のではなく、むしろ、苦境を乗り越えながら新たな挑戦が次々と生まれたのです。こういった「地域の力」を発揮した地域には、どんな要素があったのか。地域の現状を把握し、新たな取り組みへとつなげていくための6つの視点が生まれました。



福島県有機農業ネットワークによる「大豆の収穫体験」（写真提供：石井和彦）

「6つの視点」+「幸福度」で地域を診断

地域の持つ力は、以下の6つの視点から考察されます。

- **共生社会**：地域の人々による参画と協力
- **経済・金融**：地域の中の経済循環
- **自然との共生**：自然環境の保持・保全
- **豊かな暮らしと生活**：すべての人々の豊かな暮らし
- **公共施設**：持続可能な暮らしの支え
- **文化・伝統**：文化・伝統の保存と継承

- 各分野には複数の設問が用意されています。この問いに対し、地域の人たちがワークショップを通して意見を出し合い、自分たちの地域の現状を評価します。6つの分野ごとに集計しレーダーチャートをつくることで、地域の強みや弱みが視覚的にもわかりやすく表現されます。ツールは今後、過疎高齢化、持続可能な第一次産業の推進、自然環境の保全、地域経済の活性化などの地域の課題に対して、住民の主体的な取り組みにつなげる道具として、今後各地で活用されていく予定です。

地域の力診断ツール レーダーチャートのイメージ

